

急増 調査

頼んでみる?



マンションライフも購入次第でツライものに?

年間を通じ、断トツに引越しの多い春。総務省の統計「平成17年都道府県内移動者数」によれば、3、4月に転入届を出した人は88万6948人、「都道府県間移動者数」では96万598人に上り、いずれも年間の約3割ほどがこの時期に集中する。

何かと浮足立つ季節ではあるが、最近では五月病ならぬ四月病も出現し、憂うつな日々を過ごす人も少なくない。引越しも一つの引き金のようなのだ。

「引越し先の部屋に盗聴器がないか、調べてほしいというお客様が、最近増えてきています」

そう話すのは、神奈川県内で探偵会社を営む坂井利行さんだ。

引越しの当日、依頼者に随行し、その場で器具の有無を確認する。盗聴器発見は、安いものなら1000円台でも市販され、自分で調べることもできるが、携帯電話から発せられる電波などにも反応しがちで、素人にはなかなか判断が難しいそうなのだ。

盗聴器といえば、2月、日本航空インターナショナルのパイロットが、実際相手の客室乗務員の女性宅に盗聴器を仕掛けたとして、電波法違反容疑で逮捕されている。もし、この女性が何も知らぬまま引越してしまえば、新たな入居者は盗聴器とともに生活することになる——。全く人ごとではない。

坂井さんによれば、ストーカーが「お金を返してもらっていない」などと、それらしい理由をつけて、相手の引越し先を割り出そうとすることもあるというから、心配したらきりがない。逆に「ストーカーに分

からないような引越し方法を教えてほしい」と女性から相談を受けることもあるとか。

引越す部屋の家賃が相場に比べて安い場合など、過去に何かあったか、調査を依頼する人もいる。

「マンションが建った当時までさかのぼり、事件や事故の有無を調べ、近所に聞き込みもします」

それにしても、仰天なのはこんなケースである。何とマンション購入前に、マンションの入居者全員の写真がほしいという依頼があったというではないか。請け負ったのは、首都圏のある探偵だ。

「部屋を購入しようというマンションに、どんな人が住んでいるのか、怪しい人はいないか調べてほしいということでした。2人組でセールスマンを装い、一軒一軒を回りました。人が出てきたら、その都度、気付かれないように撮影。結局、50人以上の人に会い、対応

春。入学や入社を控え、引越しシーズンが間もなく到来する。新天地での暮らしを心待ちにする人がいる一方で、さまざま不安から、引越し先の調査を探偵に依頼する人も増えてきているという。現役の探偵に聞けば、あれよあれよと驚きの実態も明るみに出て――。



探偵会社に 「引越し先

の様子や雰囲気をチェックしました」

さらに、その写真を依頼者に見せると、「坊主頭にジャージー姿の男性など3人を「不審そうだ」と指摘。その3人については、別途、自宅から会社までの行き帰りを尾行し、素行調査も実施したという。

結局、問題のある事実はなかったが、依頼者がマンションを購入したかどうかは分からない。ちなみに調査期間は1週間ほどで、費用は約100万円。マンションの頭金に回したくなる金額だが、背に腹は代えられないということか。

さらに、意外に多いのが、引越し後のことだという。新天地でトラブルを抱えた人からの依頼が、全体の1割近くを占めるといっているのである。

前出の探偵が、こんな事例を挙げる。

「新築マンションに入居した銀行員一家が、引越した早々、玄関前にゴミや犬

あなたも調べられている

のふん、また使用後の生理用品が毎日のように捨てられて困っていました。そこで、ドアののぞき窓に監視カメラを設置したんです。

小さな映像ではありましたが、犯人は目の前の一軒家に住む医師と即座に判明しました。近隣の大地主でもあったため、新しいマンションが気に入らなかったの

いじめ予防で学校の調査依頼も

しかし、である。

引越し後のトラブルは、そうした具体的な話ばかりではないのだ。中には「幽霊が出るから」「誰かが家にいるから」監視してほしいという依頼もあるという。神奈川県内で探偵会社を営む板橋あきらさんが、こんな話をする。

「引越したばかりの独り暮らしのおばあさんが『うちに幽霊が出る』と言ってきかないんです。そこで自宅に監視カメラを二つ取り付け、私も張り込みをし

かもしれません」

当初は、「相手の家に入り込む」と息巻いていた依頼者も、最後には、「マンションを買ったばかりでいざこざを起こすのも……」とあきらめたとか。

その後、防犯用の監視カメラとセンサーライトを付けたところ、被害はびつたりやんだという。

いじめ予防で学校の調査依頼も

した。一緒にビデオを見ると、確かに蛍のような白い光が映っている。おばあさんは「これがそうなのよ」と言い張るのですが、お化けとは思えない。「怖いから隣室に寝てほしい」と言われて寝たこともありましたが、最後には「安心して眠れるようになった」と喜ばれました」

また、依頼の中で目立つのが「引越した土地で、近所の人に嫌われているのではないか」というもの。集合住宅の専業主婦に多い。

「あいさつしても無視される」「ゴミ出しの時に自分の悪口を言われている気がする」「携帯電話の番号を知らないうちに変えられた」などと訴えるのだ。

「あの奥さんは私を嫌っているから尾行してほしい」と言われ、交友範囲を調べることがあります。また、近所の住民を訪問して話を聞いたり電話をしたりして、依頼者についてどう思うか、それとなく聞き回すこともあります。そこで依頼者の悪口を言うか言わないかをチェックしているのです」(坂井さん)

批判があつた場合も、なかった場合も、依頼者には伝える。しかし、「悪口はなかった」と報告しても、疑心暗鬼がぬぐえず、「別の人を調査してほしい」と言い出す人もいます。

「結局、近所の人を続けて10人ほど調べたこともありませよ」(坂井さん)もちろん、こうしたことは、住まいの場に限ったこ



誰は何をする人ぞ…

とではない。昨今、いじめがクローズアップされる学校や職場にも広がっているのである。

「娘の教科書にバカと書いてあったので」「転校後、息子の様子がおかしいので」と、母親から子どものいじめについての調査を依頼されることも珍しくなくなりました」（坂井さん）

坂井さんも以前は学校の先生に直接、話を聞くことが多かったというが、今はなかなか接触が難しい。そのため、子どものランドセルにワイヤレスマイクを忍

ばせて、まず、本当にいじめられているのかどうか、証拠をつかむことから始めるというのだ。

ただ、体をたたかれる音が録音されていても、ふざけて小突かれた程度なのか、本当に暴力を振るわれたのか、判然としない場合もある。それに最近のいじめは陰湿で、音に残るようなものとは限らないのだ。

受験生の母親は「なんでもする」

「学校説明会に行ってもいいことしか言われぬ。それで、『実態はどうなのか、調べてほしい』というものでした」（坂橋さん）

坂橋さんは学校近辺で評判を聞き込み、先生の経歴についても名簿などで調査を進めた。数人の男性教諭については素行調査も実施したという。そのうち、一人の男性教諭が、学校帰りに妻以外の女性と食事をしているところを目撃。報告を受けた母親は、「この学校

「変なメールが来るとか、インターネットの掲示板に悪口を書き込まれるといったものです。ただ、誰が書いたものか。ただ、誰が書き込んだかまでは、こちらでも調べきれませんね」（坂井さん）

そのせいか、こうした危険を未然に防ごうと、入学前に転居先の近くの学校の調査を依頼する親も出てきているという。

「学校説明会に行ってもいいことしか言われぬ。それで、『実態はどうなのか、調べてほしい』というものでした」（坂橋さん）

「聞き込みをする対象は、在校生の親ごさんや先生、学校近辺に住んでいる人などです。ある学校を調査した時のことですが、『穏やか

なおおさんが多く、争いはないようだ」と報告したところ、とても喜んでもらえました」

とにかく受験生の母親は必死で、進学のためなら転居だけでなく、なんでもするといふような状況のようだ。ある探偵業者は苦笑交じりに、こう話す。

「以前、引越先近くの私立校の調査のほかに、『試験内容を事前に盗めないか』『裏口入学の方法を知らないか』という相談まで持ちかけられたことがあります。さすがに、そこまではご期待にはそえませんでしたがね……」

「聞き込みをする対象は、在校生の親ごさんや先生、学校近辺に住んでいる人などです。ある学校を調査した時のことですが、『穏やか

日本一のたけのこ料理



錦水亭

阪急京都線長岡天神(特急停車)
☎ 075(951)5151代
<http://www.kinsuitei.co.jp/>

折しも今年6月からは探偵業法が施行される予定で、暴力団関係など悪徳探偵は駆逐されるという。しかし、逆に言えば、施行直前の今が、悪徳業者の最後の「かき入れ時」なのだ。

「派手に広告を出していたり、女性探偵をうたっていた探偵社には気をつけるべきです」
とは、この業界の関係者に共通する意見だ。

探偵に頼るも頼らぬも自分の判断ではあるが、現代ニッポンは、そこまでしないとのおちおち引越しまつたのだろうか。

本誌・菊地 香